

HELLHOUND 01

SHIROW

01

SL



士郎 正

PIECES 4
ピース4
HELLHOUND-01

士郎正宗
SEISHINSHA

PIECES 4

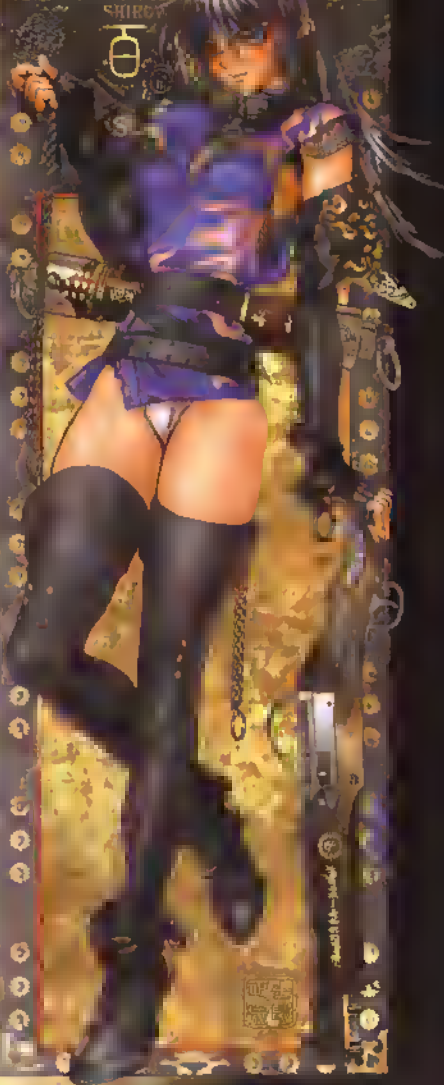
HELLHOUND 01

士郎正宗



SEISHINSHA

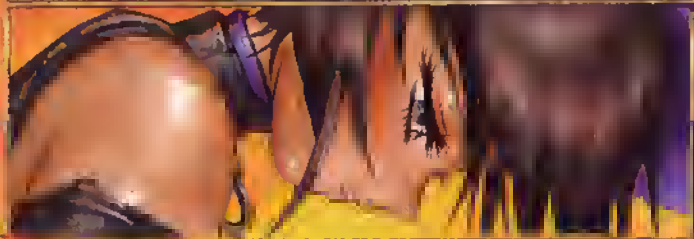
HELLHOUND 01





ある時、紫苑は地獄で目覚めた。夢でない事は焼けつく肌の感でわかる。寝ている間に油断があって誰かに殺されたのだろうか、或いはタバ食べた川魚にでもあたったのか？ 牛の頭をした獄卒「生前に罪を犯した人間の魂に相応の責め苦を与える菩薩の一種。思

からではなく、それが神の意による仕事」が「御前はゆえあつて黄泉判官殿に召喚されたのだ」と、紫苑に告げる。ここでの言葉は耳に聞こえるのではなく腹の中に湧くものらしい。何故か理由はわからないのだが獄卒衆が大変情けしい者達のように思えてならない。

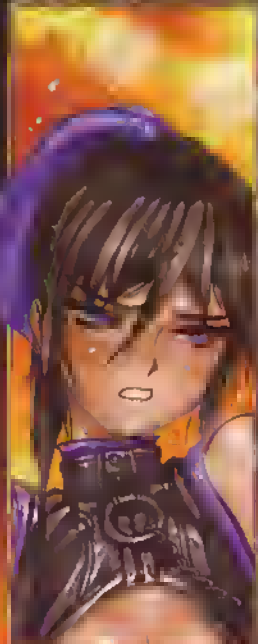




現世でひたすらに武を継承し戦い続けてきた紫苑は、人々がまだ闇や見知らぬものをひどく忌み恐れた時代の少数異民族という事もあり、人前で肌をさらす事が全く無かった。それが寝つかの手慣れた寝備以外何も身にまといておらず、彼女にとっては裸同然のほどく恥ずかしい姿で牛頭の奴卒衆（人外のものではあるがその姿から雄であることは明白）に取り囲まれているのだ。さすがに心中堪えかねてはいないのだが、銃筒や火薬袋が熱で引火しないが、火薬が筒に合わないが周囲の火で何とかできないが等、反射的に戦いの流れを組む紫苑に奴卒衆の頭目らしき黒髪の奴卒が告げる。

「我ら千年万年采の姫様、仏の道で御同業社心算うに。得物や鎖は御主の望み故に在る。要するに人は裸で現世に生まれて、現世に全てを残し裸で死ぬものだが、常世でも何かの理由で許されたものであれば所持したり身にまとったりできるらしい。戦いはこれは生前の行いに由来するものか。紫苑にそうしたことを判断する術は無い。確かに一糸まとわぬ裸よりは心持ち良いが、どうやら常世ではいまでも裸で現れるらしい。近に敵死から見ると相手が牛の顔で、表情すら読めないのだが、恐ろしい姿ではあるが、敵意や悪意は感じられない。それどころか意外と礼儀正しいようにも思え、他にどうすることもできないので、紫苑は奴卒衆に連れられて貴族判官様と我らのもとへ出向く事に同意する。





の獄卒衆に、馬代わりの獣の背に跨らされて美泉判官殿の下に引き立てられる繁苑。現世では馬や牛は「人が乗るもの」ではなく荷物を運んだり、土木農耕で力作を手伝ったりする動物だ。騎馬鞍などが登場するのは後の時代の事。ごく稀に「自分達は高貴だ」とか言っている連中が移動時に乗る姿を見る事があるが、その際も女性は足を揃えて胃の片側に座るのが常識であり跨ることなどありえない。繁苑は幼少の頃に農作業中の牛に跨った事があるが、このように脚を大きく開いての乗馬は初体験である。おまけに剥き出しの内股全てが深馬の背皮に密着し、恥ずかしい事この上ない。



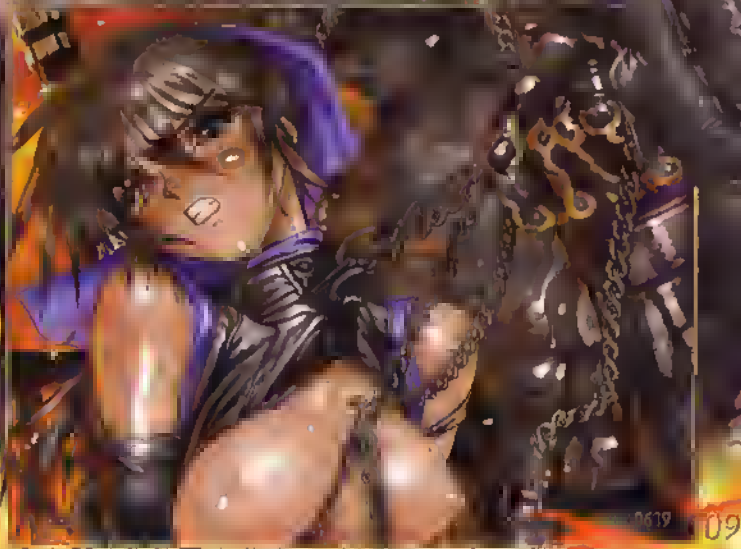


20040521-01

紫苑は周囲を伴する数卒衆に気づかれないように視線を隠し伏せて配りつつ、時々座り心地を整えるふりをして、揺れる鬼馬の背中にすっかりその気の脱座を振り寄せたりしながら、そのような状況ではないにもかかわらずどうにも我慢のきかなくなってきた自身の身にひどく困惑していた。

何処ともしれない景色の中を延々と進んでゆくうちに、押し殺していた吐息も完く濡れぬこえ始め、しなる柳腰も隠しきれなくなってくる。ぐしょ濡れの穢けいやらしい音を立て鬼馬の背中に小川が満る。ためらいや恥りらいも薄れてあからさまに乱れる紫苑と、彼女を取り囲むように伴する数卒衆一行は刑場を過ぎて黄泉の国の街道を深く降りてゆく。やがて行列は黄泉判官殿の下に到着したらしく、紫苑は鬼馬の背に貼すかりい節を残して下馬させられる。

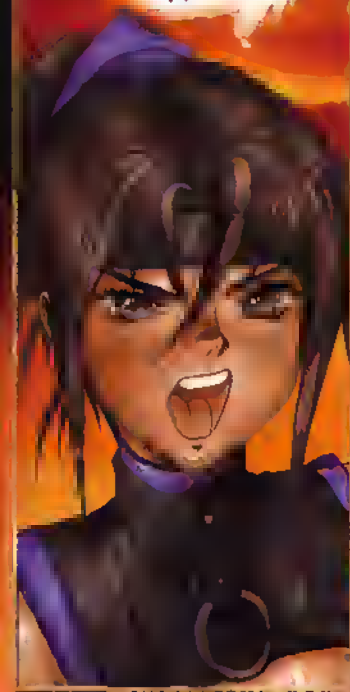
…少々
裾が乱れた
だけだ…
何でもない



0619

09

私は人間界で
この上無く勇敢に
戦った！
ヴァルハラに
迎えられぬは
何故か！？



紫苑の頭に『御前は未だ死んでおらぬ故である』と声が響く。黄泉判官殿の言うには、ここ地獄には「生前、色欲に関わる罪を犯した魂が行く責め場」があり、千年に一度その剣の山から「夜刀（よど）の神」が発生し人間界に抜け出て、人や獣や様々な器物や妖怪妖怪の頭に依り憑いて禍を成すのだそう。紫苑は数卒家の神将となり人間界（といっても人間道にはよく見えない亜世界だから）に赴いて夜刀の神憑きの様々なものと交わり、喜悅によってこれを地獄に戻すよう命ぜられる。

もっぱら武に生きて、ろくに人肌すら知らぬ紫苑は「肉体の知れぬ者共と肌を合わせるなどまっぴら御免」と鼻息荒く憤慨していたが暫く説法されるにつけ心固に秘めたる肉体の欲望などもあってか夜刀の神憑魔の任を承諾する。実は紫苑は過去にも未来にも夜刀の神憑魔を専門に行う生来の寛姫なのだが、夜刀の神が眠っている千年の間、神気を悟られぬため人間界に帰駐し、三途の川か記憶を流すので当人も魂の奥深く以外では、そうである事を忘れていただけなのだ。

これより御主の肌に
鬼神八仙經を呪込み
乙女鬼姫と成す
鬼神の歡喜肉俣を
知るがよい

な、何だその
素裸を眺さねば
ならぬような
物言いは…？

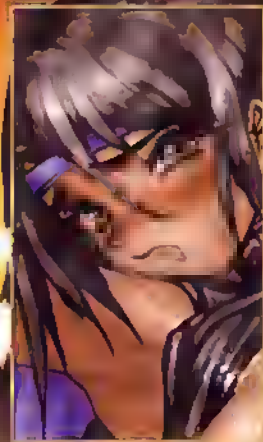
えーいやそれ
今ここでか
?!!

要あらば
いつでも
どこでも
いかなるものと
交わらねば
ならぬ



紫苑の髪卒業は鬼神とどれほど交わっても変
 わる事。慣れる事。失う事。産む事などが無い。
 神将であるから、八百万（やおよろず）
 神の力を借りて荒ぶる事もできるが、主要
 三事悦をもって夜刀の神を黄泉の地獄へと導
 くことにある。言うなれば人間以外の「
 神憑き」を対象にする事魔の一種だ。
 紫苑は全身くまなく鬼神八仙路を呪込む「
 三行」を経て、封印されている「永遠（とこ
 しろ）三千年世界で唯一無二の神姫乙女」
 「
 自在菩薩羅刹の交感之技」を感
 得することになる。とはいえ事情生ずみの上、
 自分には人間であると思い込んでいた紫苑に
 対して、儼かな衣を手荒く剥かれ居並ぶ紫苑
 目々に柔肌をさら
 と「と難儀」あ







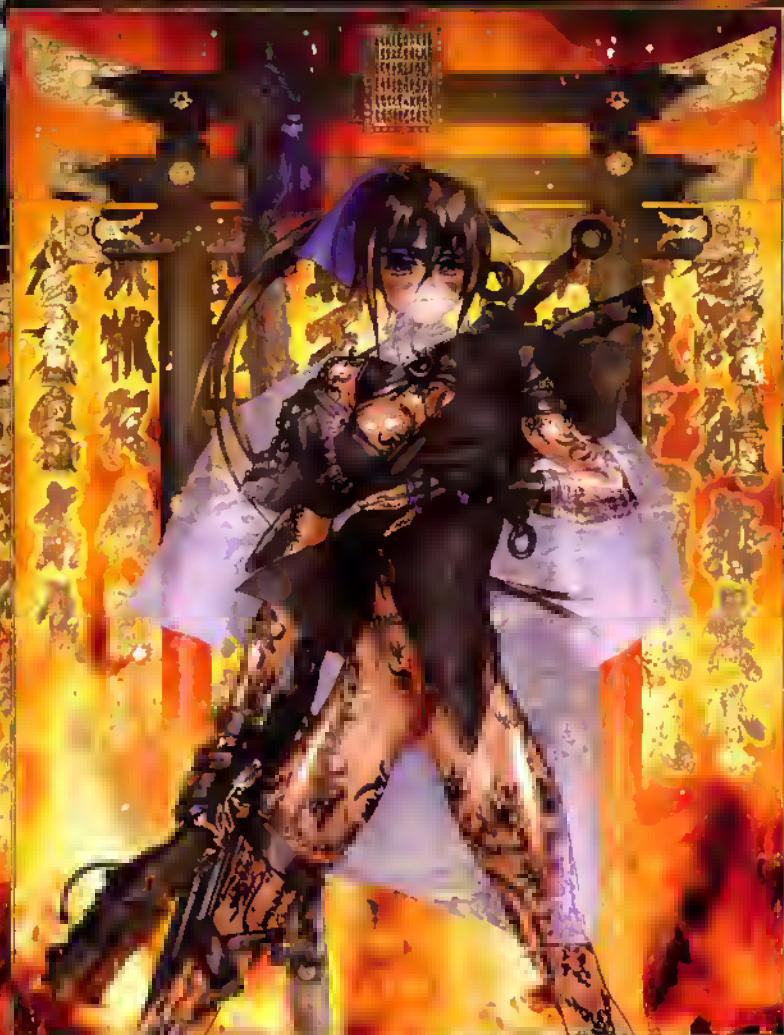


2004 2805
2004 2820
2004 3037





夜刀の神の依り代となったものは自然界の掟を無視して様々な交わりを行い奇怪を生み出す。紫苑の喜悅業によって夜刀の神が黄泉に導かれた後、神通力が残った「抜け依り代」は稀に混乱して更に悪行を生そうとする。そうした抜け依り代を、武力で成仏させてやるのも紫苑の仕事だ。紫苑が人間界で使用していた武器なども彼女同様に神器となり、行に貢献し仏縁を積む事になる。





火縄式銃短筒も神通力により銃そのものだけでなく火種や火薬、弾丸等まで必要に応じて無限供給されるのだが、その事に慣れるまで紫苑は人間界にいた時同様のやり方で使用する事になる。その他の衣装や装備も人間界で通常言うような「実体」は無く、本来は武器そのものも必要無いのだが、これが「彼女流のやり方」なのだろう。

紫苑はこれから敵卒衆の選抜隊と共に夢幽玄の世界を旅し、喜悅技芸と武術の限りを尽くして夜刀の神に関わる一切切を収めなければならないのだ。

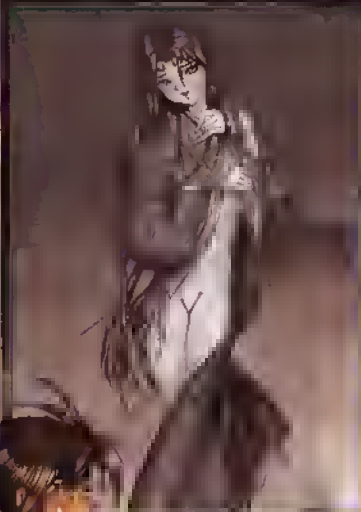


泉門 骸

■ 泉門の境目、泉比良坂にある千引石の近くで夜刀の神の平路から感得した「石の下にいたもの」が紫苑の行く手を阻む。紫苑の喜悅と武術の技芸は御霊を現世から泉衆に戻す為にあるので、現世と泉衆の境界付近ではあまり意味が無い。武術で倒しても喜悅で封しても、石を境に泉衆側に戻るだけ（見た自信かな距離を移動させるだけ）だ。紫苑はしばらく相手をしていたが「これは夜刀の神がより遠くへ逃げる為に置いていった罠様ぞの真である」と悟って「石の下にいたもの」をその場に残し、夜刀の神を追って現世に向かう。



真景比良坂を過ぎると「忘却の河」又は「三途の川」がある。河に架かる「勿忘橋（わすれなばし）」は、たとえ鬼神であろうとも一方通行であり一寸たりとも戻れず、振り返る事もかなわない。特にこの鬼神勿忘橋は渡る魂も極めて少なく橋の中程には女の姿をした送りすぐりの橋守鬼がいて、通行する者を試すのだと、獄卒頭が繁死に告げる。



20020722 PARTS & VARIATION



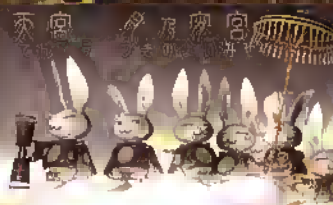
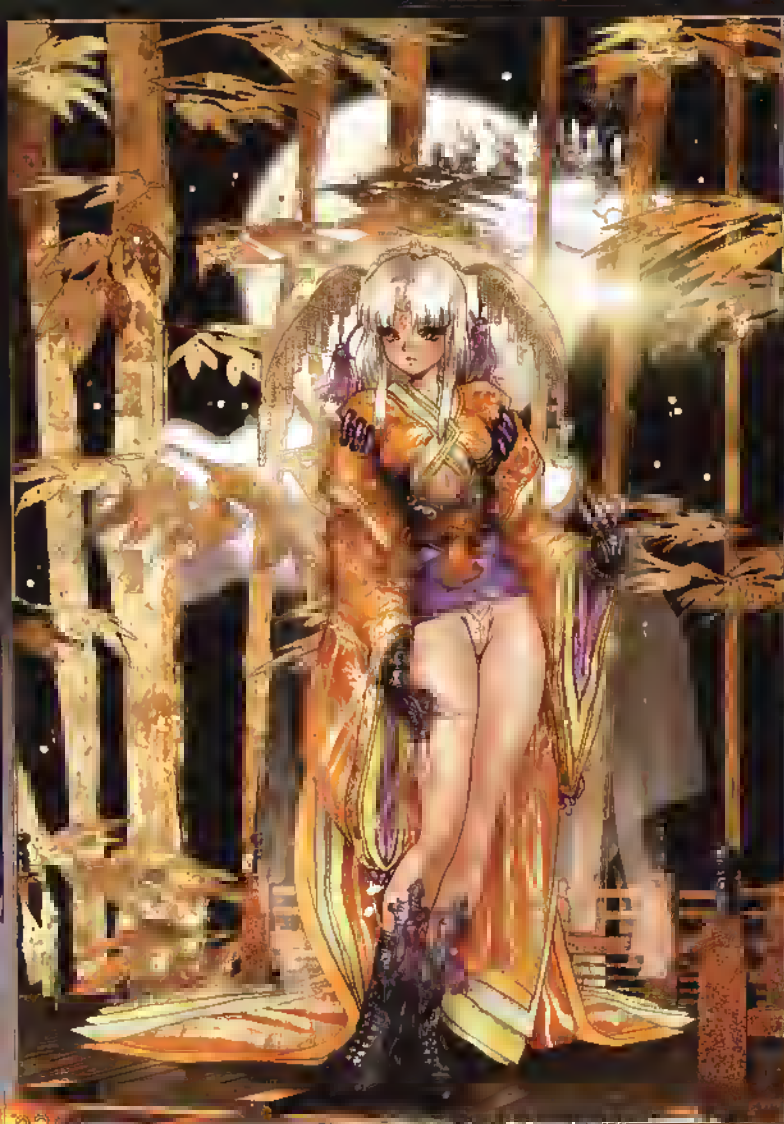


20100518

脚が自慢の虎兇を鳥代わりに早廻りするが、勿忘橋には鉅龍というものが無いらしく、橋守兇を振り切る事はできない。実は橋守兇は黄泉判官殿から紫苑の能力還元度を確認するよう仰せつがっているのだが、そんな事とは露知らぬ紫苑は再び想定外の行為を強いられた若干戸惑い気味。

橋守兇は虎兇の背に乗り上がり、紫苑を吟味し通行を許す。此岸まで追走してくれるが、振り返る事のできない紫苑はついに橋守本来の姿を見ないまま、一歩を踏み出す。





夜刀の神は月の光を得て空中を飛翔する性質がある。黄泉を出て先ず向かうのは月だ。人間界の月には何も無いが、天上界の月には天帝の館があり、月人や月兔連がいる。





黄泉のものが天界へ自由に往來する事は六界の神法で固く禁じられている。紫苑は天帝の許しを得て天宮に入るが、御伴の獄卒衆は中天閻の松の間で控えて待つ事になる。



太刀にて突き込まれし
白蘭の如き柔肌をば
播き撒り合はせて
共に野宴の餘瀝を
太いに染み亂そう

は、標榜姫と？
いや、待て
それは少々無理
○ 国をゆえ









20030530
0021111 VARIATION
20030601
20030529-01
20030529-02
20030526
比壳紙家

相手が寝持を持った筈であるために勝手が異なり、夜刀の神の精魂（ウツ）が紫苑の泉門（ヨミド）をくぐらない為、天帝が「牛鬼を率いるもの（紫苑のこと）」から輝夜を引き剥がすまで追償が送られず、任務の最初期から他力処理事案となつて

人間的価値感で見れば絶対無敵となった紫苑だが、夜刀の神級の神から見ればこのよう付け入る隙は幾つもある。輝夜は他の（上巻）姿（上巻）に異なり、再び（中）へこんで中。

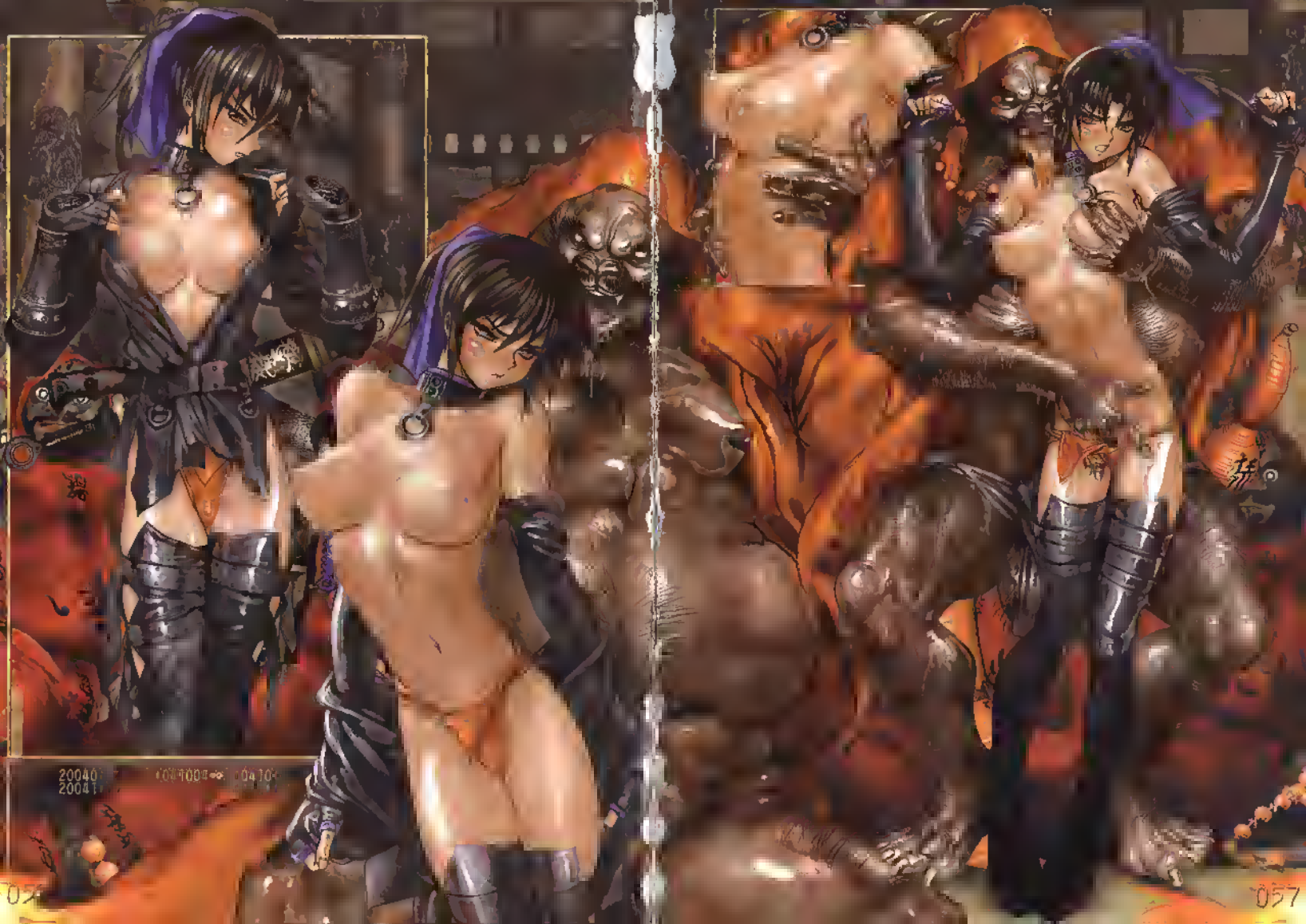




本群前の退治依頼の&祀り場所「熊の宮」で四門の八大守護神像に依り憑いた夜刀の神を追い詰める紫苑。八大守護神像は鬼の姿に変形して、古木故か何とも言いがたい不快な軋み音を立てながら紫苑を武力で排除しようとする。辛い、動きが重いのて誘って散らし！体づく相手にするが、宮があまり広くないので確実に成仏させていくのも一苦労だ。この夜刀の神憑きはまた黄泉を出て間もない童子神であったためか、紫苑の身体に擦り寄って撫で回すばかりでなかなか交わろうとしない奇妙なものであった。神にはこのような変わり神もいるものだ。紫苑の喜悅の技芸が試されるのはこのような場合であろう。



七、新
 八、立
 九、地
 十、地
 十一、地
 十二、地
 十三、地
 十四、地
 十五、地
 十六、地
 十七、地
 十八、地
 十九、地
 二十、地
 二十一、地
 二十二、地
 二十三、地
 二十四、地
 二十五、地
 二十六、地
 二十七、地
 二十八、地
 二十九、地
 三十、地
 三十一、地
 三十二、地
 三十三、地
 三十四、地
 三十五、地
 三十六、地
 三十七、地
 三十八、地
 三十九、地
 四十、地
 四十一、地
 四十二、地
 四十三、地
 四十四、地
 四十五、地
 四十六、地
 四十七、地
 四十八、地
 四十九、地
 五十、地
 五十一、地
 五十二、地
 五十三、地
 五十四、地
 五十五、地
 五十六、地
 五十七、地
 五十八、地
 五十九、地
 六十、地
 六十一、地
 六十二、地
 六十三、地
 六十四、地
 六十五、地
 六十六、地
 六十七、地
 六十八、地
 六十九、地
 七十、地
 七十一、地
 七十二、地
 七十三、地
 七十四、地
 七十五、地
 七十六、地
 七十七、地
 七十八、地
 七十九、地
 八十、地
 八十一、地
 八十二、地
 八十三、地
 八十四、地
 八十五、地
 八十六、地
 八十七、地
 八十八、地
 八十九、地
 九十、地
 九十一、地
 九十二、地
 九十三、地
 九十四、地
 九十五、地
 九十六、地
 九十七、地
 九十八、地
 九十九、地
 一百、地



20031126-02
20031126-01
20031123





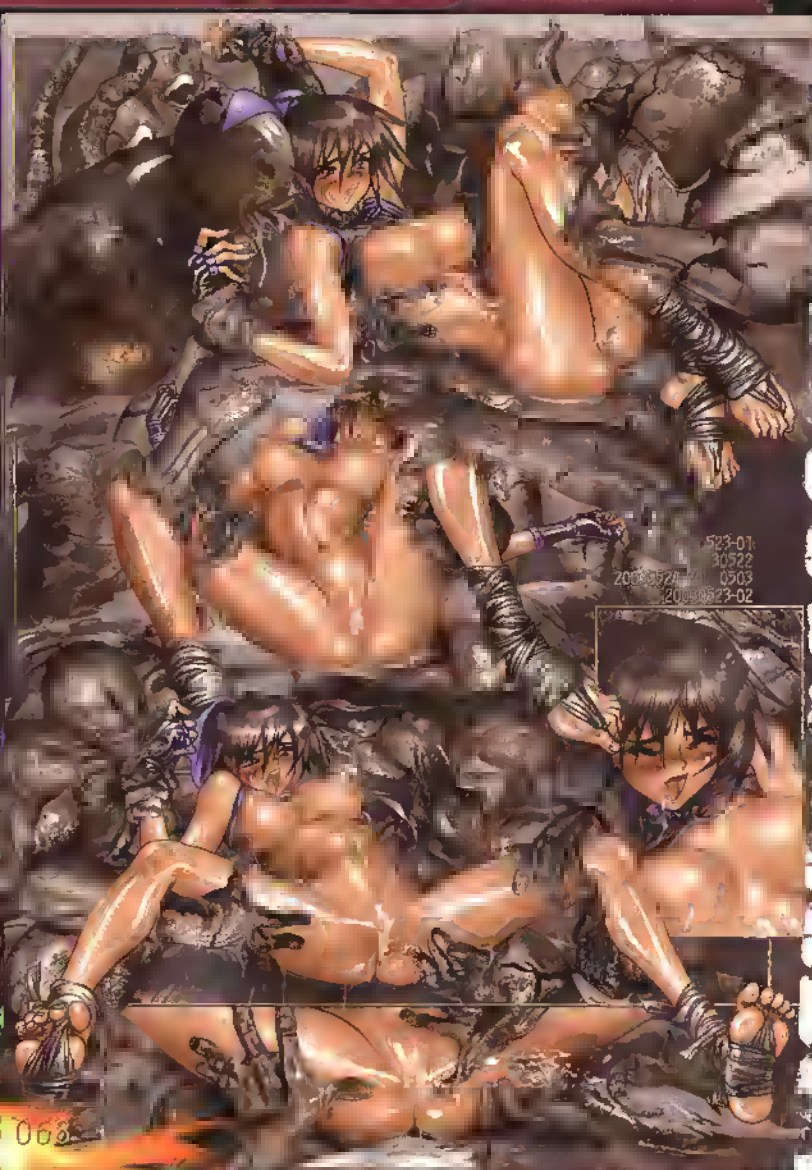
夜刀の神は月の光に乗って空中を飛翔する。
月光を満身に受けて興じる狐狸妖怪の類には
依り憑き易いのであろうか。

岸寺に巣くっていた緋衣の六尺童は稀なる鬼
姫に精魂を底埃かれ往生したので残念も無く
仏縁ある転生をすることであろう。





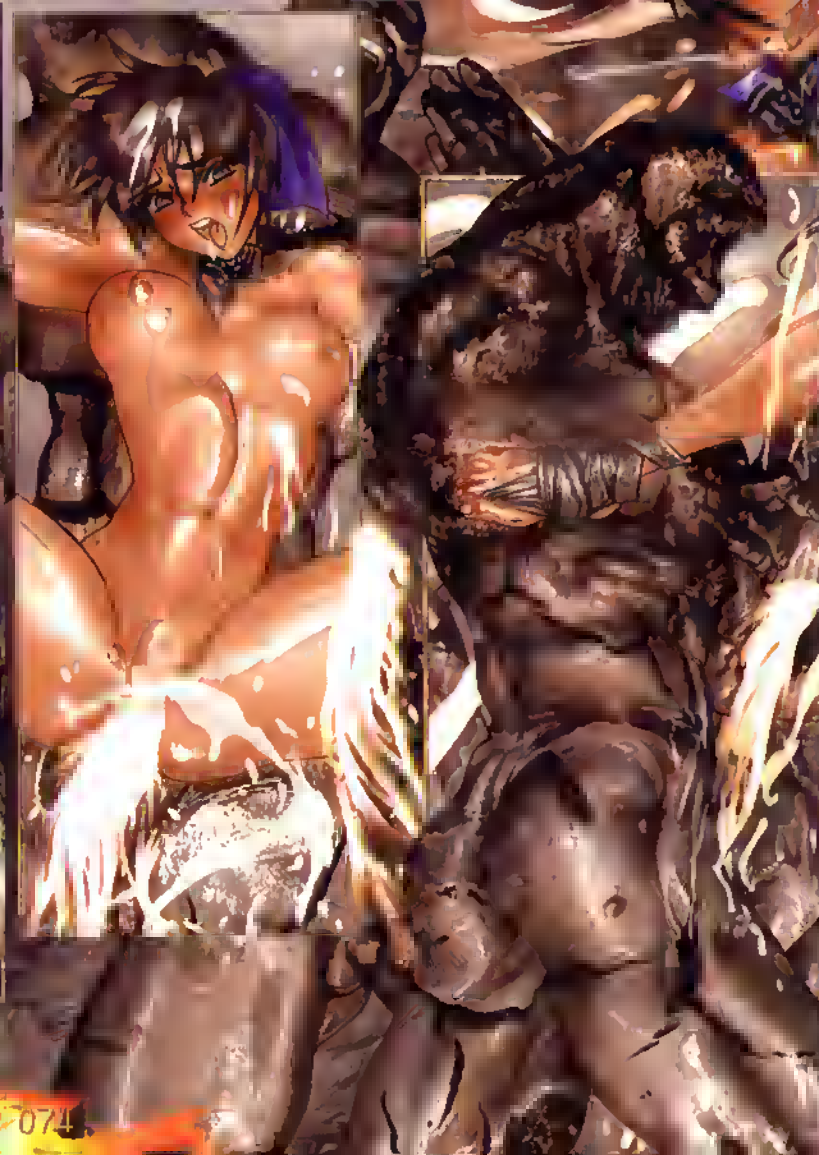






2003-08-08
2003-08-08 2003-08-08







20021119

077

075

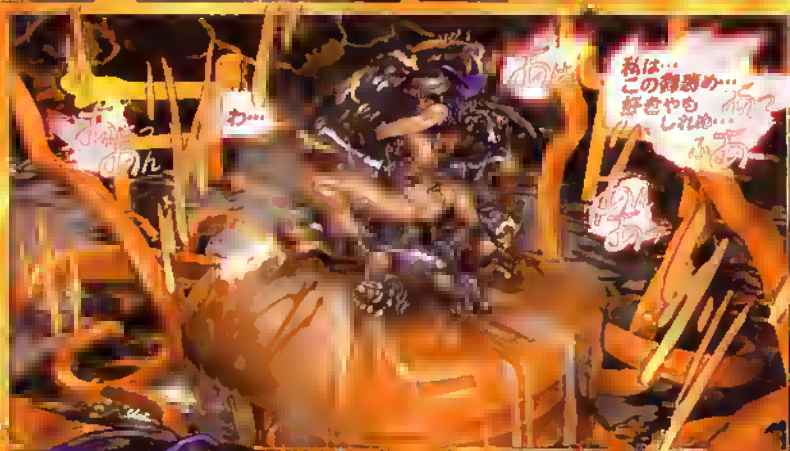


紫苑によって精魂底抜かれた依代は、成仏後人間界に穢を成す事がある。田泥の坊主共は泥田に戻り土地はやがて豊饒になるだろう。

紫苑は黄泉の門に封神の符を貼り、長夜にわたったひとつの追霊を終えて、再び夜刀の神を追って旅を続けることになる。



20030511-01
20030511-02 20030512-00 20030529





吸い付くやうな
締め付き具含ひ
揺き絞る柳腰に
踊り乱るる千装の妙技
夜刀の神追儚の神器
×あらは万全なり

い、否まだ
心分分に
感得したとは
言えぬ

夜刀顕現まで
自慢の拷問棒を
差し詰め引き詰め
皆にて突き込み
精の限りを尽くし
備え極ませぬか

何と凄まじう
色好みたる姫よ
夜刀の神無き祈
封してあるは
我等では及び無き
やえなりしか

夜刀の神は泣きながら天地を廻ける童子の姿
で顕現し、周囲に散る涙が夜刀憑きを引き起
こすと言われている。夜刀の神を追儚し追い
ついた際に紫苑だけがその真の姿を見ることが
できるが、それは追儚が終わる再び忘却の
河を渡る時が来たことを意味する。

真泉の地獄で罪人に罰を与える香爐型卒衆の
行に同性の喜悅が含まれておりその喜悅が夜
刀の神になるとも、罪人達の魂から砕け飛ん
だ悪業の元が固まったものとも言う。決して
善悪の問題ではない、追儚も手続上の必然
なのだ。

含み幼き様の
菊座一文字
かくも見事に
潤び狂ひたるは
さても極めて
見愛でたく
艶きたる事よ

なれど戯れ歌の
才無きことも
希有の様なり

もう 夜刀の
早々と姫狩りを
現さば良いに...

え男君の御姿にて
精も極めたるもの
なれば
思ひも萌ゆる
潮垂り松原
(待つ腰) なんてな



ところで
夜刀の神は
如何程人の世に
出で座しおるや

我御前
然る事も
知らずか
やれ 難儀な

八百万に
決まりおろうが

...
数えた事
無いんだな

注：夜刀の神は一柱であるが、夜刀憑きは様々に起こる。一柱が順次様々なものに憑くのではなく、たくさんの夜刀の神を一柱ずつ収束するわけでもない。神とはそのように誠に不可解なものである。

魔物はいかに
太り反れども
頭は所詮
ウシか...

まあよいわ
胸をん神器で
ひとつ柱 余す事無く
さぶりにしてくれる

みやれ

それでこそ我等
獄卒衆の将
さても
めでたき事かな!



夜刀の神は
如何程人の世に
出で座しおるや
我御前
然る事も
知らずか
やれ 難儀な
八百万に
決まりおろうが
...
数えた事
無いんだな
それでこそ我等
獄卒衆の将
さても
めでたき事かな!



